BYOD[ノートパソコン等の持参]について

帝京大学　八王子キャンパス

帝京大学では、BYOD（Bring Your Own Device)を必須としています。BYOD とは、大学の学修において自分自身の（個人で購入をした）PC 等**＊1** を持参して用いることを指します。つまり、授業や自主学習、課題の実施に当たって PC やインターネット等が必要な場合、個人購入の持ち運びが可能な PC を活用することとなります。

購入に当たって、どのような PC（OS、性能等）が必要となるかについては、別途書類「学生生活に必要なパソコン・ネットワーク環境整備のお願い」の内容とスペック表をご参考頂ければ良いのですが、OS は Windows の最新バージョン*2 を基本とします。

***1**　「PC 等」とは、ノート型パソコン、キーボードが付随したタブレット型端末等、持ち運びが可能なコンピュータを意味します。スマートフォンは含みません

*2　Mac および iPad、Chrome 等は推奨しません。これは大学の学修環境、ネットワーク環境が理由です。これらの OS を搭載した機器は、もちろん利用は可能ですが、設定等は自己責任で行うことになります。また、windows であっても古いバージョンのものはネットワークのサポートができなくなりますので、最新のバージョンを準備して下さい。

実施に当たっては個人所有の PC であっても「Microsoft365（Word、Excel 他）等のアプリケーションの無償利用」「キャンパス内無線 LAN の利用」等について大学としてサポートをします。

○BYOD を推進する理由

（1）自律的に学ぶ力を身に付ける

大学では、レポートや発表資料の作成、学習支援システム（LMS）を活用した授業、e-Learning を用いた自学自習等、日常的な学習活動においてパソコン等を活用しています。また、履修登録、教員とのメールによる連絡、レポート提出、就職活動等においてもパソコン等を活用しています。PC を活用して学ぶ力、ものごとを進める力は、大学での学びにとどまらず、今後オンライン・テレワークが当たり前となる 21 世紀の日本において、社会で活躍し豊かな人生を過ごす上においても必要な力です。

(2)**教育学部初等教育学科　初等教育コース**

GIGA スクール構想第 2 期に対応できる教員養成を推進する。

2025 年現在、日本の全ての公立小中学校に「一人一台」の PC と高速インターネット回線が導入されています。全ての教室には児童生徒分のタブレット型 PC が設置され、授業・学習の必要に応じていつでも教室でインターネットに接続された PC を使うことができるようになっています。

初等教育コースは、ほぼ全員が教員志望者であり、卒業時には 100 名以上の学生が教員として公立小学校に着任をします。「授業で PC が使えない」「児童生徒の PC 活用を指導、支援できない」では済まされない時代です。

こうした学校の環境に対応し、積極的に授業や校務等に PC を活用できる教員養成を推進することが求められています。そのためには、「いつでもどこでも」PC を使うことができる環境を整え、学生時代から PC を手元に置いて学びを進めることが必要だと私達は考えます。

以上